

## 大先輩より北辰会入会の申し込み有り

～12期 池端 正さん 92歳～

事務局 前田直人

2022年6月初旬に、北野高校の事務長様より「池端様から友達を知りたいとの連絡があった」とメールを頂きました。

直ぐに池端先輩に連絡いたしました。事情をお尋ねすると「仕事の都合で同期生、同窓会とも疎遠になっていたが、今回大阪に居を移したので友達を知りたいと思い学校に連絡した」と懐かしそうにお話して下さいました。

「事務局としてはむやみに会員の個人情報をお知らせすることが出来ません」とお返事致しました。先輩は同窓会が元気よく活動されていることに感激されていました。賛助金も出したいし、名簿に住所を記載してほしいと熱っぽく語られました。

その後、池端先輩からは賛助金を届けて頂き、北辰会発行の書物の購入や電話でのやり取り等が続いています。

ある時の電話では校歌の1番を歌われました。先輩の記憶力に驚くやら、又、私たちの校歌は同窓生を繋ぐ歌だと誇りに思いました。

今回、池端先輩より第一報の文書が届きました。

2024年12月31日に閉じる北辰会にとって大輪の花が咲くような予感と気持ちにさせて頂いております。

(2022年7月19日 前田記)

ゆうべの星のまたたきを  
理想の影と仰ぎつつ  
人は家路に向うとき  
いさみて集う文の窓  
結ぶ誓いを固くして

十二期 池端 正

北野高校定時制の入学が決まって、新しい仲間と本校屋上に上がり、当時流行していた江利チエミの「テネシーワルツ」を夕刻、淀川に向かって、大声を張り上げて唄った、思い出を持っている。卒寿を過ぎた爺さんで御座います。まさか私が北野の定時制に受験することも、ましてや合格など考えず、がむしゃらに押し通して、北野の門をくぐることに幸運以外、何も考えられませんでした。教室での仲間は殆んど秀才揃いで随いてゆくのが、やっとなりました。中でも松廣 勉、新井 実、紫竹史

郎、佐々木幸政らと交遊して、脳に刺激を受けました。別に映演部を作り講堂で芝居をやりました。名は思い出せませんが、関大演劇部長の厳しい指導を受けて、私は裏方をやる積りでしたが、蓋をあけてみると、出演者の脇役で強引に出演することになりました。木下順二作の「夕鶴」台詞は少なかったのですが、初めての出演で、かなり緊張していたのを覚えております。次の文化祭には、三島由紀夫の「邯鄲」<sup>かんたん</sup>夢枕の老人役で出演しましたが、老人役の衣装で、殆んど厚化粧で、逆に楽しく演じたことを思い出します。



(12期 池端正様近影)

又 当時、担任の足立先生から万葉集抜粋の小冊子を頂いて、日本語の美しい言葉使いに目覚めました。それが基礎となり現在川柳塔社の同人として作句を楽しんでおります。ペンネームは“丹後屋 肇”として朝日新聞「なにわ柳檀」九十句入選させて頂きました。何とか百句に漕ぎつけて百句集として上梓に持って行きたい所存であります。

北辰会事務局長前田直人様には勝手乍ら落着する迄、頑張っていたきたいと切にお願い致しまして拍手させて貰います。

令和四年 七月八日